

【参考資料】

主体的・対話的で深い学びの実現へ向けて

平成30年度版



福島県教育庁県北教育事務所

目 次

☆ 学校教育指導の重点 全体構想	1
☆ 主体的・対話的で深い学びの実現へ向けて	2
1 主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業づくり	
ポイント1 単元をつくる・授業をつくる	4
ポイント2 教材との出会い・学習課題の把握	6
ポイント3 追究・解決〈計画・方向付け・見通し〉〈個での追究・解決〉	8
ポイント4 追究・解決〈ペアやグループ・学級全体での話し合い〉	10
ポイント5 まとめ・振り返り 新たな学び	12
2 主体的な学習を支える基盤づくり	
○ 学級・学習集団づくり ～認め合い・励まし合い・磨き合い～	14
○ ふくしまの「家庭学習スタンダード」の活用について	16
3 日々の授業づくりを支える視点	
○ 連続性のある幼小中の接続となるために ～幼児教育の視点から～	17
○ 中・高の学びをつなぐための課題と連携の在り方 ～高等学校教育の視点から～	18
○ すべての子どものよさや可能性を最大限に引き出すために ～特別支援教育の視点から～	20
4 明確な目標設定による組織的な学力向上策の推進	22
＜参考文献・引用文献＞	

平成30年度～平成32年度

学校教育指導の重点全体構想
福島県教育庁県北教育事務所学校教育課

夢をかなえる県北の教育

第6次福島県総合教育計画
基本理念 “ふくしまの和”で奏でる、
心豊かなたくましい人づくり
主要施策 頑張る学校応援プラン



目標達成のために努力し工夫できる子ども



確かな学力

自ら課題を見つけ

主体的に解決する子ども

主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業

づくり

「授業スタンダード」に基づく授業づくり

個に応じたきめ細かな指導の充実

主体的な学習を支える基盤づくり

「家庭学習スタンダード」の活用

「学び方」「学習規律/習慣」の確立

子どもの主体性を生かした読書活動の推進

組織的な学力向上策の推進

学力向上グラウンドデザインの改善と推進

学力調査等の結果を受けた、機能的なPDCAサイクルの構築

教師の指導力向上のための体制づくり

目指す子どもの姿に基づく校内研修の充実

「互見授業」による教員の学び合いの推進

豊かなこころ

ひとと関わり心を通わせながら

よりよく生活する子ども

心に響く道徳教育の推進

指導内容の重点化と指導計画の改善

「特別の教科 道徳」の時間の量的確保、質的改善

保護者や地域と連携した道徳教育の推進

多様な体験活動・交流活動の充実

学校や子どもの実態、発達段階等に応じた体験活動、交流活動の充実

望ましい勤労観・職業観を育むキャリア教育の充実

児童生徒理解に基づく生徒指導の充実

不登校の未然防止・早期発見等のための組織的な取組

いじめ根絶に向けた組織的な取組

教育相談の充実とSC、SSW等との効果的な連携

情報モラルに関する指導の充実

健やかな体

進んで運動し体力の向上と

健康づくりに励む子ども

進んで運動に取り組む態度の育成

運動の楽しさや喜びを実感させる工夫

子ども一人一人の運動量が十分に確保された授業の工夫

体力向上のための組織的な取組

子どもが主体的に取り組む体力向上推進計画の改善

業間活動や部活動等の体育的活動の充実

健康で安全な生活の実践につながる指導の充実

身近な問題を取り入れた保健・安全指導の工夫

望ましい食習慣を育成するための食育の推進

自ら考え行動できる放射線・防災教育の推進

学級・学習集団づくり

「認め合い・励まし合い・磨き合い」

互いのよさや成長を認め合い、違いを

理解し合える学級・学習集団

互いに切磋琢磨し、向上心をもって

ともに励む学級・学習集団

目標に向かって協力しながら、粘り強く

取り組む学級・学習集団

幼児教育の充実

発達の時期にふさわしい指導計画の作成

長期的・短期的に見通しをもった指導の計画

各年齢の目指す子どもの姿の設定

子どもの意識や興味の連続性のある活動の設定

全教職員による校（園）内支援体制の充実

特別支援教育コーディネーターを中心とした実効的な

支援体制づくり

校内研修の活性化

特別支援の視点を生かした環境設定・指導の工夫

主体的・対話的で深い学びを実現する保育の展開

多様な体験ができる教材の工夫

試行錯誤や考える過程の重視

人との関わりが深まる活動の充実

よさや可能性に目を向けた評価の工夫・活用

幼児理解に基づく子どもの実態把握

見取りに基づく情報交換や意見交換

地域におけるインクルーシブ教育システムの推進

「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の活用

本人、保護者との合意形成に基づく合理的配慮の提供

関係機関との連携、特別支援学校のセンター的機能の活用

交流及び共同学習の推進

特別支援教育の充実

家庭や地域社会、関係機関との連携

学校と家庭との連携を強化し家庭の教育力向上を図るための、PTA活動の充実

地域全体で子どもたちを教え育てるための、社会教育関係事業（地域学校協働活動事業等）を活用した活動の推進

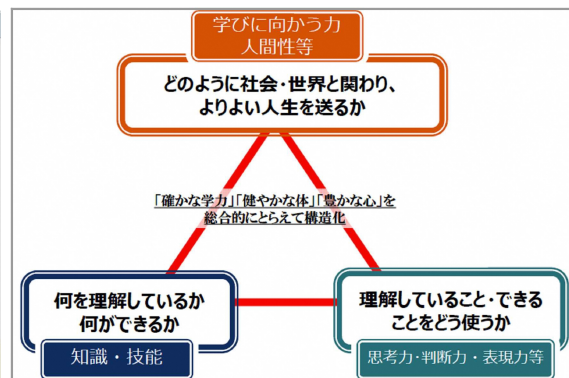
子どもの主体的な学びを促すための、関係機関の役割の理解と地域人材、NPO、企業、公民館、公共図書館等の施設を活用した活動の推進

学校課題の解決を図るための、関係機関との連携を促すコーディネート力の向上

主体的・対話的で深い学びの実現へ向けて

新時代を切り拓いていく子どもたちの育成へ向け、中央教育審議会において、新しい時代にふさわしい学習指導要領の在り方が検討され、平成29年3月告示されました。

学習指導要領には、“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育むことをねらい、学校、家庭、地域が幅広く活用できる「学びの地図」としての役割が期待されています。



※資料「新しい学習指導要領の考え方」

文部科学省より

そして、学校における教育活動の大部分を占める学習指導については、「何を学ぶのか」とともに、「何ができるようになるか」を明確にし、各教科の目標及び内容を①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の3つの柱で再整理されました。この資質・能力の3つの柱が、偏りなく実現されるよう、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通しながら、子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこととしました。

主体的・対話的で深い学びの実現へ向けては、以下の3つの視点に立った授業改善を行うことが必要です。

- (1) 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているかという視点。
- (2) 子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えることを通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているかという視点。
- (3) 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているかという視点。

※学習指導要領解説 総則編 第3節 教育課程の実施と学習評価

小・中学校において、これまでと異なる指導方法を導入しなければならないということではなく、現在すでに行われている日々の授業を、主体的・対話的で深い学びの視点で改善し、単元や題材のまとまりの中で指導内容を関連付けつつ、質を高めていく工夫が求められています。

このようなねらいを踏まえ、福島県教育委員会では「ふくしまの『授業スタンダード』」及び「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」を中心とした「学びのスタンダード」を策定しました。

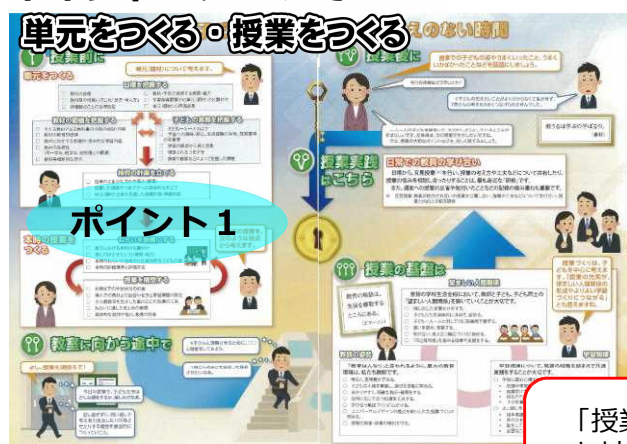
すでに、各校とも『授業スタンダード』を基にした授業改善が進められているところですが、県北教育事務所では、授業改善の視点をより具体的にしていくために、「【参考資料】主体的・対話的で深い学びの実現のために」を作成しました。

『授業スタンダード』を基に、授業づくりの視点を5つに整理し、授業の在り方や支援の仕方のポイントを具体的に示しました。

先生方が日々の授業の準備をするときや校内研修の機会などに、授業づくりの資料として活用していただければと思います。

ふくしまの「授業スタンダード」に基づく授業づくりの5つのポイント

ポイント1について



「授業スタンダード」の P2 の「授業前に」の「単元をつくる」「本時の授業をつくる」について、本資料では授業づくりの**ポイント1**「単元をつくる・授業をつくる」としてまとめました。

また、学習の基盤づくりについて「授業スタンダード」の P3「授業の基盤は」を参考にして、作成しました。

ポイント2～4について

教材との出会い・学習課題の把握



追究・解決

＜計画・方向付け・見通し＞ ＜個での追究＞



ポイント3



追究・解決

＜ペアやグループ・学級全体での話し合い＞

ポイント4



まとめ・振り返り 新たな学び



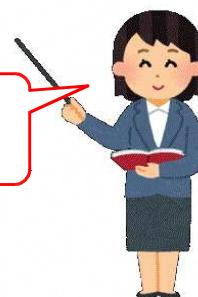
- ポイント2**は授業の入口である、教材との出会いや学習課題の把握についてまとめました。子どもの「主体的な学び」を実現できるように、子どもの問いや願いが学習課題に生かされるように工夫していくことを述べました。
- ポイント3**は解決の見通しをもって、自力解決に向かう場面について留意すべきことをまとめました。教科特有の「見方・考え方」を働かせる発問や教師の働きかけについて述べました。
- ポイント4**は「対話的な学び」を実現するような、協働的な学習の教師のコーディネートについてまとめました。子どもの考えをつなぎ、新たな考えをつくりあげることや、全体で考えを練り上げ学級全体の学びとして共有していく手立てについて述べました。
- ポイント5**は学習内容の確かな定着と学びの広がりを実現できるように、一人一人が本時の振り返りを行い、「何を学習したか」を明確にし、子どもの言葉を大切にしていねいやめあてと整合性のあるまとめをすることや適用の場の留意点について述べています。また、次の学びへつなげる視点についてまとめました。



1 主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業づくり

<ポイント1> 単元をつくる・授業をつくる

「今日の授業をどうしよう」とばかり心配していませんか？そのような心配を解消するために、単元づくりを見直してみてもいいのではないでしょうか。



◇ 単元の目標を達成する指導計画を立てるために

教材の価値の把握

教材の価値を見いだす！

- 教科書の構成や掲載されている資料、数値などを本文と関係付けて読み込みましょう。
- 異校種の教科書も参考にして、**学年間の系統性**や**単元間の関連性**等を把握しましょう。
- 教材に内在する、単元で求める資質・能力を育成するための価値を見い込みましょう。

目標の把握

単元の目標を明確に！

- **学習指導要領**から、「見方・考え方」、学習内容、育てたい資質・能力を明確にとらえましょう。
- 各教科の評価観点ごとに子どもの実態に応じて目標を設定しましょう。
- ※ 各教科の「見方・考え方」は、学習の手段であり、評価の対象ではないことに留意しましょう。

子どもの実態把握

目的をもった実態把握を！

- **授業風景**を思い描き、その実現につながる実態把握をしましょう。
- **各種調査**で学年、学級の状況や子どもたちの特性等をとらえましょう。
- **レディネステスト**や**アンケート**等で、単元に関わる学習状況（つまりきにも目を向けて）をとらえましょう。



単元の指導計画・評価計画

目指す子どもの姿を描いて全体を見通した計画を立てましょう！

- 単元の終わりの子どもの姿を3つの視点で描きましょう。
 - ・ 第一の視点「何がわかり、何ができるようになってほしいのか」
 - ・ 第二の視点「どのようなことを考え、判断し、どのように表現してほしいのか」
 - ・ 第三の視点「どのようなことに新たな学びを見いだそうとしてほしいのか」
- 目標達成のための言語活動を設定しましょう。
 - ・ 目指す子どもの姿にふさわしい言語活動を選択する。
 - ・ 言語活動を課題解決・課題追究の過程に位置付ける。
 - ・ 思考や判断を促す発問や指示を具体化する。
- 目的、方法を明確にして指導上の留意点を考えましょう。
 - ・ 目的を明確にするために…「～のために」を言えるように。
例えば：「自分の考えとは異なる考えにふれさせるために」
 - ・ 方法を明確にするために…「～を通して」「～することで」を言えるように。
- どのような場面や方法で評価するのか、次の指導に生きる評価を計画しましょう。
 - ・ 目標、指導、評価、まとめの整合性が図られているか。
 - ・ 授業時間内に手立てを講じることができるタイミングか。
 - ・ その場で確実に子どもの学習成果をとらえられる方法か。

ゴールからの構想を

目指す子どもの姿を描き、そこからさかのぼることにより、子どもの実態に応じた必要な指導の手立てが見えてきます。

授業案で単元づくりや授業づくりの確認を！



互見授業を通して授業案を書いたり読んだりするとき、単元づくりや授業づくりの力量を伸ばすチャンスです。授業案には、授業者の思いが詰まっています。何を目的として、何をするのかを明確にもつことは、指導の手立ての有効性を高め、子どもたちの学びを確かなものにつな갑니다。

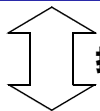
小学校第4学年算数科「面積のはかり方と表し方」複合図形の求積の授業案を見ましょう。



その記述、十分ですか？本当に必要ですか？～児童（生徒）観を例に～

- ・ 本学級は男子13名、女子12名、計25名である。男女の仲がよく、何でも言い合える関係である。また、問題行動や不登校がなく、全体的に落ち着いて生活している。
- ・ アンケートによると、算数科が好きな児童が20名で、積極的に挙手をして発言をする様子から、学習意欲が高いと言える。昨年度2月の学力検査では、平均偏差値が53であり、概ね学習内容を理解していることが分かる。

学級の人数や各種調査結果を書いても、指導に生かせる情報でなければ意味がありません。何のために人数を押さえるのか、各種調査等の結果をどのように生かすのか吟味しましょう。



指導の意図が伝わってくる授業案はどちらでしょうか？



- ・ 1班5人によるグループで、多様な考え方にふれる機会を継続している。その結果、自分の考えに自信をもったり、異なる考えのよさに気付いたりする学びにつながってきている。
- ・ レディネステストでは、箱の中のチョコレートの数を求めるために、かけ算を用いたり、並び方を変えたりすることができていた。このことから、第2学年の学習内容を想起させながらグループ活動に取り組ませることが可能である。

これまでに継続している指導や調査結果を指導構想につなげようとしています。第4学年「面積のはかり方」の指導にあたり、複合図形の面積の求め方を考えるために必要な第2学年のレディネス状態を把握することで、学習方法の見通しをもとうとしています。

その手立て、目的と方法が明確になっていますか？～学習の見取りを例に～

第4学年 算数科学習指導案			
1 単元名 面積のはかり方と表し方			
5 本時の目標 図形を分割したり付け足したりしながら、長方形の面積の公式を活用して複合図形の面積の求め方を考えることができる。			
6 指導過程			
学習活動・内容	時	指導上の留意点 ※評価（方法）	
1 既習を振り返り、本時の課題をつかむ。 (1) 前時の学習内容を振り返る。 (2) 課題をとらえる。 どのようにすれば面積を求めることができるだろうか。		 ● 子ども一人一人の解決の様子をとらえ、個別指導する。 ○ 全体で解決の方法を整理・分類できるようにするために、子ども一人一人の解決方法をとらえ、図形の分割の方法から引く方法に向かうような指名順序を検討する。	
2 解決の見通しをもつ。			
3 自分の考えた方法で面積を求める。 ・ 3つの長方形に分ける方法 ・ 横に2つに分ける方法 ・ 縦に2つに分ける方法 ・ 大きい長方形から小さい長方形を引く方法			
4 全体で共有・吟味する。			

○よい例 ●悪い例

教師がすることは分かりますが、どのようなことをとらえ、どのように指導したいのかが分かりません。

「計算に執着して考えがまとまらない子どもには、方眼図を活用した操作活動により長方形に分割できるように助言する」など、つまずきの予想を基にした支援策を記述してはどうでしょうか。

次の段階で複数の解決方法を整理したり分類したりする話し合いをしようとしていることが分かります。また、その話し合いによって深い学びに向かわせるために、意図的な指名によるコーディネートをしようとしています。

教材との出会い・学習課題の把握

「今日のめあては〇〇です。わかりましたか？」
このように、教師の一方的な課題提示になっていませんか？

一方的に学習課題を与えるのではなく、子どもの「問い」や
「思い・願い」を引き出し、課題意識をもたせることが大切です！



◇ 教材との出会い～「問い」や「思い・願い」を引き出す～

教材との出会わせ方を工夫し、子どもの興味・関心を高め、「問い」や「思い・願い」を引き出しましょう。

「問い」や「思い・願い」を引き出す教材との出会い（例）

- 具体物を提示する。
 - ・複数の資料を比較（対比）したり、分類したりして特徴を見付けさせる。
 - ・社会や日常生活と関連があるものを提示し、具体的なイメージをもたせる。 など
- 既習事項を振り返る。
 - ・既習から未習へ移ることでギャップを感じさせる。 「できる→できる→あれ？」
 - ・前時までのノートや掲示物等により振り返らせる。 など
- 実演を取り入れる。
 - ・教師による実験などの実演・演示を行い、興味・関心をもたせる。
 - ・子ども自身が試してみる活動を取り入れ、主体的に取り組ませる。 など
- 子どもとの対話を大切にする。



子どもの「問い」や「思い・願い」から

おもしろい！
やってみよう！



なぜ？どうして？

考えてみたい！
解いてみたい！

調べてみたい！

学習課題の設定へ

子どもの「問い」や「思い・願い」に寄り添った学習課題の設定を！

学習課題・めあての設定につなげる教師の役割が重要です！



- ・みんなが調べたいことをまとめると？
- ・ということは、今日は何を考える必要がありますか？
- ・みんなの疑問を整理すると□□となりますが、どうですか？
- ・Aさんの疑問いいですね。それをみんなの課題にしましょうか？ など

学習課題の設定につなげる教師の発問例

◇ 学習課題の把握～「何を学習するか」「何ができればよいか」を明確にする～

「～について考えよう」の課題をもう一度見直してみよう。「なぜ～」「どのように～」
「～は何か」など、子どもの問いの解決を図り、何を学習するのか、何ができればよいのかを示唆する課題を、子どもの言葉を基に設定することが大切です。

教師による学習課題設定だったとしても・・・

子どもから「問い」を引き出し、学習課題につなげることが難しい場合があります。また、技能教科においては「～しよう」という行動目標になることもあるでしょう。
このような場合でも、発問を工夫することで、**学習課題を学習の主体者である子ども自身のものとして意識させる**ことが大切です。

前の時間に課題として残っていたことを思い出してみましょう。

学級として〇〇というめあてに取り組みたいのですが、どのように学習していけばいいのでしょうか。

では、どんなことに気を付けて学習するかを考えてみましょう。



その学習課題、ちょっとした工夫で変わります！

◇ 子どもから問いを引き出し、解決の必然性・必要感から設定した課題

<小学校1年 算数「たしざん」>

問題 たまごは あわせて なんこですか。

○○○○

○○○○○
○○○

本時の目標が、「 $4 + 8$ の計算の仕方を考えることを通して、被加数を分解して計算する方法について理解する。」であるとき、下の2つの学習課題のうち、子どもの学習意欲を喚起し、しかも本時の目標に直結する学習活動が予想されるのはどちらでしょうか。

A 「 $4 + 8$ の計算のしかたを考えよう。」

B 「どちらに10のまとまりをつくろうかな。」

どちらを10にしようかな。



算数においてBのような学習課題を作るには、教科書のキャラクターのつぶやきが参考になります。

Aは、どのような四則演算でもよく見られる学習課題です。

しかし、本時では、Bを問うことによって既習と異なる方法があることに気付かせることができ、ねらいに直結する学習活動が期待できます。

<小学校5年 体育「ゴール型ゲーム」>

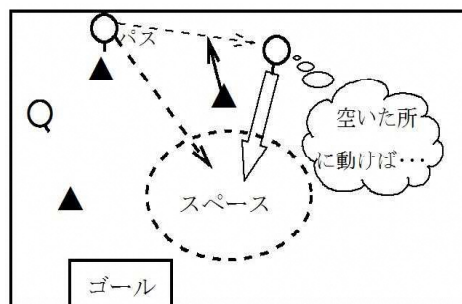
T 前の時間のパスはどうだった？

C パスをするのと相手にとられた。

C パスがつながらなくて、ゲームにならなかった。

T そうだったね。パスがつながらなくて悩んでいたね。

T パスをする側、もらう側はどんな工夫をすればいいのかな？



そこで、学習課題を「うまくパスがつながるようにするには、どのように動けばよいのだろうか。」と設定します。

例えば、「パスの仕方を工夫してゲームをしよう。」

と教師が一方的に提示するよりも、学習内容（空いた場所に素早く動くこと）について主体的に思考させ、運動させることができます。

技能を中心とした教科であっても、工夫することで子どもの問いを引き出して必然性のある課題を設定することができます。

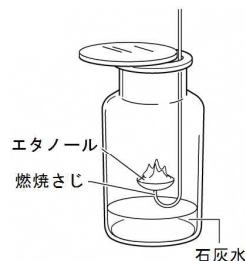
<中学校2年 理科「化学変化と原子・分子」>

この単元では、集気びんの中でエタノールを燃焼させて、どのような物質が発生するのかを調べ、その結果を基にエタノールはどのような原子から構成されているのかを考察します。

課題解決への意欲が高まる学習課題の提示の仕方は、次のA、Bのどちらでしょうか。

A 「エタノールを燃焼させて、どのような物質ができるのか調べよう。」

B 「エタノールをつくっている原子は何か、つきとめよう。」



A：実験の内容、目的は伝わりますが、授業の最終的なねらいである「原子」の言葉が示されていません。指示されたことについて淡々と取り組む授業になりがちです。

B：実験の目的が、「原子」という言葉を使用して具体的に示され、かつ、子どもが主体的に追究しようとする意欲を高めることが期待できます。



子どもたちに課題解決の見通しをもたせられず、子どもたちが自力解決の場面で戸惑っている姿はありませんか？

子どもにめあてを把握させ、「授業で行き着こうとするところ」をはっきりと意識させたあと、「そこに行き着くためにはどのようなことをするのか」という見通しをもたせることが大切です。

◇ 課題解決の見通しをもたせるためには？

○ 「結果の見通し」をもたせる。

- ・ 「授業で行き着こうとするところ」をはっきりと意識させましょう。
- * 答えを予想する。 * 仮説を立てる。 * 作品の完成図を構想する。 など

○ 「方法の見通し」をもたせる。

- ・ 子どもの状況によって、何も与えず考えさせたり、既習事項や経験を思い出させたり、直接ヒントを与えたりするなど、対応を考えましょう。
- * これまでの学習で使えることを想起する。 * 調べる視点をとらえる。
- * 学習の道筋（順序）を考える。 など

○ 見通しがもっているか見取る。

- ・ すべての子どもが見通しをもっているか見取る場面を設定しましょう。
- * 一人一人の発言に着目する。
- * ノートの記述内容から見取る。
- * ペアでめあてを確認させる。 * ネームカードで解決方法を選択させる。 など



子どもに自分の意見や考えをもたせずに話し合い活動に入っていないませんか？

子どもが自分の考えをもち、課題を追究・解決する時間を確保しましょう。その際、子どもの思考を促す発問を工夫することが大切です。

◇ 思考を促す発問とは？

○ 考えを揺さぶる。

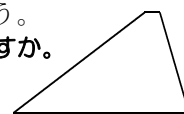
これまでの既習内容や経験に反することを投げかける。
「～だったよね。でも、～なのはどうしてだろう。」



ポイントは
目指す
子どもの姿

○ 葛藤を生む。

これまでの学習から、どちらか判断に迷うことを問う。
「これは、三角形ですか。四角形ですか。」



○ 多面的に見させる。

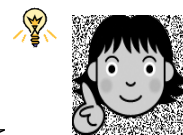
新たな視点でアプローチする方法を示し、子どもによる解決を促す。
「もし、～だったらどうなるだろうか。」

○ 矛盾・対立を生む。

考えの共通点や相違点を整理したり、根拠や微妙な違いを問い返したりする。
「みんなは同じって言ったけど、～というところは本当に同じかな。」



必要に応じて「考えるための技法」を示します



○ 分類して考える。

仲間分けして、その理由も考えよう。

○ 比較して考える。

二つのものを比較して違いを説明しよう。

○ 関連付けて考える。

分かった事柄の間に、どのような関係があるのか考えよう。

課題を与えた後、目的や観点をもちずに机間指導をしていますか？

子どもの思考を的確に見取ることが大切です。指示した内容や活動が適切であるか判断するとともに、どうコーディネートに生かすか考えましょう。



◇ 子どもの思考を見取るためには？

ア 机間指導

- ・ 発問の理解、反応、全体の傾向を把握する。
- ・ ねらい達成につながる思考となっているか把握する。
- ・ 個々のつまずきがどこにあるかを把握する。

座席表
等の活用

予想される反応を前もって
分類しておき、意図的指名に
つなげることもできます。

イ 子どもの発言

- ・ 「〇〇が～したのは、～だからなんだ。」 (理由付け)
- ・ 「〇〇と□□を比べると、～が違う。」 (比較、相違)
- ・ 「〇〇と△△には、～というきまりがある。」 (規則性)
- ・ 「～ということから～ということが言える。」 (類推) など



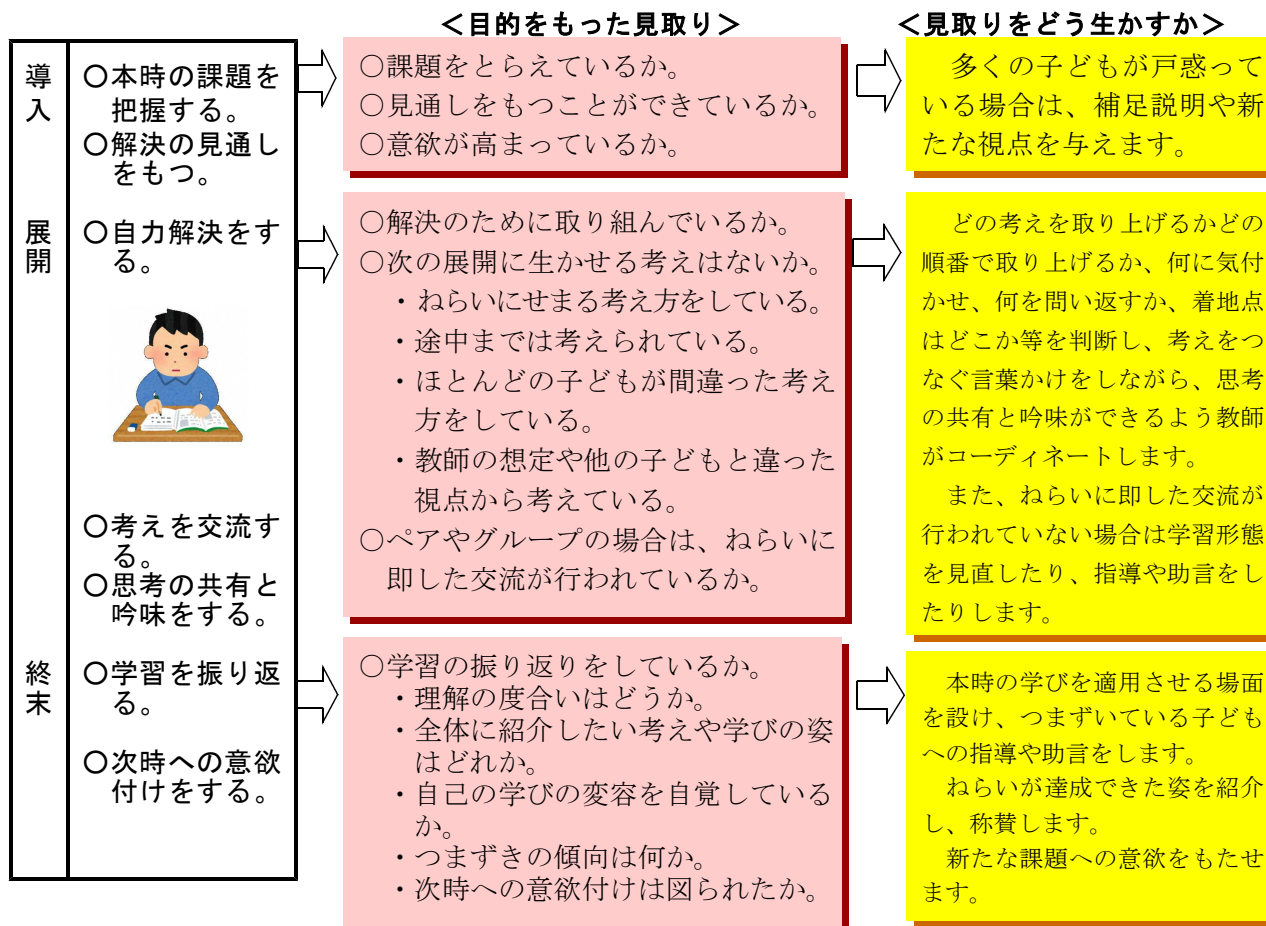
ウ ノート等

- ・ 自分の考えを書いた部分から子どもの思考過程を確実に見取り、授業展開に生かす。
- ・ よい点を称賛したり、励ましのコメントを入れたりしながら意欲を高める。
- ・ 授業後に自分の指導を振り返ったり、次時の指導に生かしたりする。



一単位時間の見取りとその生かし方

様々な場面で、一人一人の思考を見取り、把握し、それを次の展開にどう生かすかを考え、授業を組み立てることが大切です。



話し合いを授業に取り入れること自体が目的になっていませんか？

まず、何のために、何を意図してペアやグループ・学級全体での話し合いを取り入れるのか、その目的を明確にすることが大切です！！



◇ 話し合いの目的を明確にするには？

○ 話し合いを通した「目指す子どもの姿」を明確にする

「僕も同じ考えだ。これでいいんだよね。」 (確 信)
 「そうそう、私もそう思うんだよね。」 (共 感)
 「あれ、なにか違うね。なぜだろう？」 (吟 味)
 「ということは、こういうことかな？」 (再構築)
 「もしかしたら、こうかもしれないよ。」 (推 論)
 「だったら、こうしてみたらどうかな？」 (創 意)

仲間と考えを共有したり、吟味したりすることを通して、子どもたち一人一人の中に対話が生まれ、新たな考えが作り出される。



○ 話し合いのねらいを明確にして授業場面に位置付ける

○ 練り上げてよりよい意見にする。

- ・考えを広げ・深める場面
- ・対比させて考える場面
- ・1つの作業をもとに考える場面

○ 出てきた多様な考えを整理する。

- ・多面的な思考が可能な場面
- ・多様な解釈が必要な場面
- ・多くの発想を出させる場面

○ 子ども一人一人が「わかる・できる」ようにする。

- ・技能の習得を図る場面
- ・疑問の解決を図る場面

考えを共有させるための 教師のコーディネート例

○ 考えをつなぐ言葉かけ

- ・「～さんのよいところはどこですか」 (発 見)
- ・「～さんはどうしてこういう考えが浮かんだと思いますか」 (推 測)
- ・「～さんの考えはどういうことですか」 (要 約)
- ・「～さんの考えの続きが分かりますか」 (予 想)
- ・「～さんの気持ちが分かりますか」 (共 感)
- ・「ヒントが言えますか」 (補 助)
- ・「～さんの説明をもう一度言えますか」 (再 生)

○ 広げ・深める「つなぎ言葉」

- ・「だとしたら…」
- ・「たとえば…」
- ・「つまり…」
- ・「…をもとにすると」

◇ 話し合いの活性化を図るには？

○ 思考の可視化を図る（板書やツール等の効果的な活用）

【板書を活用して】

- 話し合いの視点や論点を明示する。
- 思考を刺激し、考えを深める。
 - ・書く位置
 - ・空白や色チョークの活用
 - ・文字の大小
 - ・心情曲線 等

【ツールを活用して】

- 発言や考えを類型化する。
 - ・ミニホワイトボード
 - ・付箋
- 思考ツールを活用する。
 - ・ベン図
 - ・各種チャート 等

・短冊 等

子どものつぶやきや表情の変化をしっかりとらえることが大切です。

○ コーディネートの充実を図る（コーディネートの流れ）

把握

授業中のあらゆる場面で見取る。教師の話聞いてるときの子の姿だけでなく、他の子どもを聞いてるときの子の姿なども見逃さない。

解釈

見取った子どもの姿がなぜ生じているのか、その原因を考える。授業の進み方、説明の理解度、興味・関心等を子どもの立場で想像してみる。

選択

再度説明するのか、子どもを指名して説明させるのか、隣同士で相談させるのか等を選択する。手立てを数多くもっている必要がある。

実行

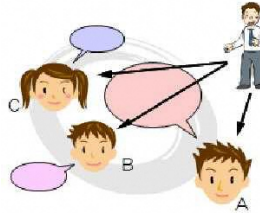
具体的にどのような言葉で発問・指示するか、誰をどの順に指名するか等を考慮しながら次の指導を実行する。



○ コーディネートの充実を図る（ねらいや場面に応じたコーディネートの例）

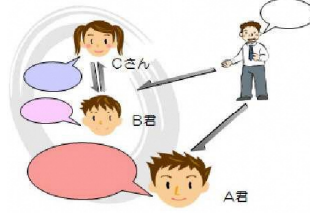
- 消極的な子どもを生かしたいとき
- 考えを積み上げたいとき など

意図的指名型



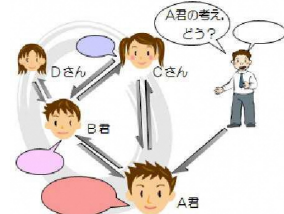
- 発言に自信をもたせたいとき
- 全員に話させたいとき など

ペア対話型



- 考えを吟味させたいとき
- 考えを積み上げさせたいとき など

子ども主体練り上げ型



- 一人一人の考えを把握し、それらをどのように組み合わせれば効果的か考えながら指名する。

発問の例

- ・（似た考えの）Bくんは、Aくんがなぜそう考えたのか、その理由を言えますか。
- ・（異なる考えの）Cさんは、二人の考えをどう思いますか。

- 互いに説明・相談させたり、再生し合わせたりする。子ども同士の対話が円滑に進むよう机間指導する。

発問の例

- ・ Aくんの考えについてどう思うか、お互いに自分の考えを言ってみましょう。
- ・ Aくんが言ったことをお互いに説明してみましょう。

- 話しやすい雰囲気づくりに努め、ねらいに迫る活動になるよう話し合いを調整しながらグループを回る。

発問の例

- ・ みなさんは、Aくんの考えをどう思いますか。
- ・ Aくんの考えを踏まえると、どのような結論が得られるでしょうか。

各授業場面における教師のコーディネート

※中2理科「電気の世界」

ペア



- Aくん) 発熱量は電力の大きさに伴って大きくなるのではないかな？
- Bさん) 私もそう思う。発熱量と電力は比例の関係があるのでは？
- Aくん) え？比例ってどういうこと？

把握・解釈

Aくんは比例の関係がうまく理解できていないようだな。

選択・実行

Bさん、比例ってどういうことか、Aくんと先生にもう一度説明してみてください。



グループ



ペアの話し合いでわかったこと、疑問に思ったことを発表してみましょう。

- Aくん) Bさんと話し合って、発熱量と電力には比例の関係があることがわかったよ。
- Cくん) え？時間に比例するんじゃないの？

把握・解釈

このグループは、発熱量と電力量の関係について気付いたようだな。

選択・実行

「発熱量」「電力」「時間」という言葉を使って、関係を整理してみましょう。



全体



Dさん、グループで話し合ったことをみんなに説明してみてください。

- Dさん) グループで話し合って、発熱量と電力、発熱量と時間には比例の関係があることがわかりました。

選択・実行

Eさん、Dさんの説明をもう一度言えますか？

把握・解釈

Eさんが首をかしげている。よくわかっていないようだな。
Fくんは何か言いたそうにしているぞ。
ノートに式を書いていたからな。

選択・実行

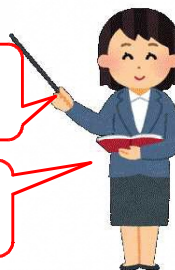
Fくん、だとしたら、式で表すとどうなりますか？



<ポイント5> まとめ・振り返り 新たな学び

学習内容の確実な定着や主体的な学習態度の育成には、振り返る活動が大切です。確実に実施するためにはどうしたらよいでしょうか。

授業前に振り返る活動に入る時刻を決めておきましょう。導入から展開までの時間管理ができるようになり、十分な時間が確保できます。



◇「何を学習したか」をまとめるために

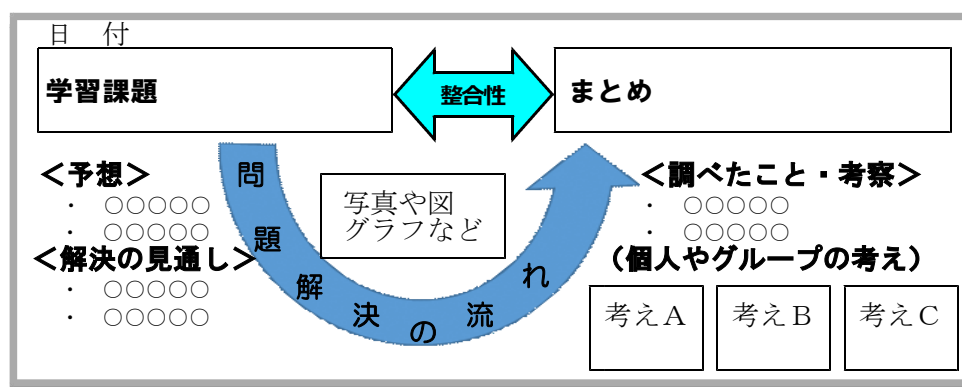
(1) 学習課題・めあてとの整合性を図ったまとめを！

本時のまとめは、課題との整合性を図り、本時に身に付けさせたいことをまとめる。

(2) 問題解決の流れが分かる構造的な板書を！

学習課題、予想、調べたり考えたりしたこと、結果、まとめまでの一連の学習を子どもの思考の流れに沿って構造化することで、一目で授業全体を振り返ることができます。

問題解決の流れが分かる構造的な板書例



学習課題とまとめを左右に配置したり、問題解決の流れを反時計回りに示したりすることで、子どもは、論理的に考えようとするようになります。

この板書例以外にも、上下に分けて対比する、左右に分けて対比するなど、学習内容により効果的な板書を工夫してみましょう。



(3) 学習内容の再生の場やねらいに合った適用の場の設定を！

再生する場の設定

学んだ知識や技能を再生する場を設定することで、本時の学びが子ども一人一人のものになっているかを確認できます。学習内容に合わせて、書いたり話したり表現したりする活動を位置付けましょう。

例「キーワードを基に友達に解説しよう」

ねらいに合った適用問題

- 「類似問題を解く」適用問題
→ 一般化を図りたい時などに
- 「同じ手順で解く」適用問題
→ 定着を図りたい時などに
- 「誤答を修正させる」適用問題
→ 確かな理解につなげるために
- 「別な手順で解く」適用問題
→ 深い理解につなげるために

◇「どのように学習してきたか」を振り返らせるために

考えの変容が分かるように記録させるノート指導

問題解決的な学習等における一人一人の追究の過程や考え方を重視したノート指導をしましょう。そうすることで、自己の変容や成長を自覚することにつながります。

【具体的な指導例】

- 板書、追究の過程における自分の考え、参考となる友達の考えに分かりやすい記号を付けるなど、区別して書かせる。
- 授業の終末に「めあて→学習過程①→学習過程②→まとめ」の順に簡潔にまとめさせる。



◇「学び続ける態度」を育てるために

(1) 新たな学びに目を向けさせる

実社会や日常生活に関わるような問題や自己のキャリア形成の方向性と関連付けた問題などを紹介し、主体的に学びを連続させていくようにしましょう。

(2) 授業内容と家庭学習を関連させる

授業内容と家庭学習を関連させることにより、本時の学習が一層定着したり次時の学習への見通しがもてたりして学習への意欲が高まります。その日の家庭学習を想定した上で、授業に臨みましょう。例えば、次のような家庭学習が考えられます。

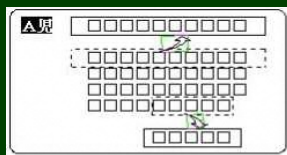
- 一層の定着を図る家庭学習 → 授業内容の一層の定着を図るため、作業的にならないように配慮しながら練習する家庭学習
- 応用・発展的な家庭学習 → 授業の内容を発展させた問題や、新たに気付いた問題を解決し、学んだ知識・技能を活用する家庭学習
- 次の授業のための家庭学習 → 次の授業に必要な既習事項を確認したり関連事項を調べたりしておく家庭学習

子どもの思考の流れを生かしたまとめを！

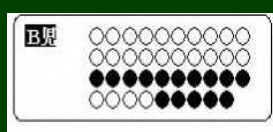
＜小学校2年 算数「ひき算のひっ算」 ※ 39 - 15 の計算の場合＞

めあて 2けた-2けたのひき算は、どのように計算すればいいのかな。

【ブロックで考えたA児】



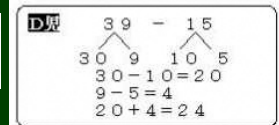
【図をかくて考えたB児】



【お金で考えたC児】



【式で考えたD児】



教師が強引に一つの考えでまとめてしまっていないですか？

教師：Dさんの考えがいつでも簡単にできる方法だね。
Dさんのように十の位と一の位に分けて計算するといいね。

わたしの考え
じゃ、だめな
のかな？

教師：(まとめを板書)「2けた-2けたのひき算は、位ごとに分けて計算する」

教師：では、練習問題をやりましょう。(答え合わせをして、授業終了)



適用問題を解くことで友達の考えにふれ、理解が深まるまとめ方の例

【重要】授業終了10分前にはまとめ開始！

教師：どの考えも10のまとまりとばらに分けて考えているけど、みんなが言うようにDさんの考えが簡単にできそうだね。
いつでもその考えが使えるか、Dさんの考えで「68 - 24」を解いてみよう。

「類似問題を解く」適用問題

「別な手順で解く」適用問題

C児：なるほど、Dさんの考えのように十の位と一の位に分けて計算するといつでも簡単にできますね。

教師：2けた-2けたのひき算は？

全員：位ごとに分けて計算する。

教師：(まとめを板書) 2けた-2けたのひき算は、位ごとに分けて計算する。

友達の考えの
良いところが
わかったよ。



2 主体的な学習を支える基盤づくり

学級・学習集団づくり ～認め合い・励まし合い・磨き合い～



子どもたちが互いに磨き合う集団に高めていくには、どうすればよいでしょうか…？

「子どもを認めること」ができているか、見直してみてもいいでしょうか。



子どもの自己肯定感が低いことが課題となっています。大人の基準や水準で叱咤激励することに終始していないでしょうか。たとえ成果が現われていなくても、こだわりをもって努力したり工夫したりしたことは認めてほしいものです。「認め合い、励まし合い、磨き合う学級・学習集団」への第一歩は、教師が一人一人の子どもと向き合い、子どもが何を認めてほしいと思っているのかを理解することです。

子どもを認めるために…



「子どもが何を認めてほしいのか…？」とはどういうことでしょうか？

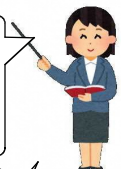
「子どもを認める」ために普段から気を付けることはありますか？

どのように認めていけばよいのでしょうか？

ぜひ、「心の成長」を認めてほしいと思います。性格、特技などの子どもが生来もっているよさや「成果（結果）」のみを認めるのではなく、プロセスや努力の様子を教師がよく理解し、「心の成長」を認めることができれば、子どもは「またがんばりたい」と思うのではないのでしょうか。

子どもの行動の背景を知ることが大切です。日ごろの関わりや観察だけでなく、生育歴や家庭の様子、興味・関心、特技や苦手なことなどについて、保護者や各担当者と情報を共有し、理解に役立てたいですね。

直接言葉で認める以外に、子どもが工夫したことや努力したことを見取り、コメントを書くなどの教師の姿勢は大切にしたいですね。また、子どもの成長を保護者や他の教師に伝えたり、学級通信などで発信したりして、他の人からも称賛されるようにすることも自己肯定感を高める効果が期待できますね。



「認める」から「認め合い、励まし合い、磨き合い」へ

教師が一人一人の子どもを認めようとすると…



教室に安心感が生まれます。

安心感が生まれた教室では…



自己表現がしやすくなります。

自己表現が意図的・計画的に行われると…



互いのよさや違いがわかります。

互いのよさや違いを理解すると…



集団活動の意義に気付きます。



「認め合い、励まし合い、磨き合う活動」が活発になります。

教師と子どもの信頼関係と自己肯定感の高まりを基盤として、子どもたちが主体となって「認め合い、励まし合い、磨き合う活動」ができるように、教師が場や機会を準備する必要があります。教師が適切に関わり、必要なルールづくりなどの支援をしていくことが学級・学習集団づくりには不可欠です。

「認め合い、励まし合い・磨き合う活動」の創造のために

【取組の例】

日々の授業における教師の働きかけ

- 次のような態度を積極的に奨励し、「話を聴く態度」を育てる。
 - ・ 最後まで話を聴く。
 - ・ 間違いを笑ったりけなしたりせずに受け止める。
 - ・ 反対意見であっても、相手を尊重して（受け止めて）発言する。

子ども一人一人に出番(発言する機会など)がある授業をしましょう。

- 「振り返る活動」等において、「何ができるようになったか」「どのような工夫をしてできるようになったか」を考えることができるようにポイントを絞って質問する。



今日は跳び箱で、踏み切りの位置を変えたら台上前転ができた。

なるほど。ぼくもやってみよう。こんどはできそうだし！！

学級活動における話し合い活動

- 全員で決めた目標に基づき、よりよい生活を送ることができるように、子どもたち自身が議題を設定し、役割分担を明確にして話し合う。

目標に掲げた資質・能力を育成するため、全教職員の共通理解の下で卒業までを見通した計画的な指導が行われるようにすることが重要です。

発達の段階に応じて、子どもたちが自信をもち、安易な折衷案に妥協せずに合意形成が図れるように、小学校から司会の経験を積ませたいですね。

- 夢や目標について、「自分のよさを生かして夢をかなえるにはどうすればよいか」「目標を達成するためにどのような努力をしているか」など、互いに励まし合い、磨き合うことができる話し合いのテーマを設定する。



子どもたちが自分の思いや身近な人たちの願い、置かれている環境などを見つめ、自分の生き方を考える経験をしておくことが重要です。

その他の場面で

- 児童会・生徒会活動(係活動)において、既存の活動に新たな活動を加え、その設定理由や活動内容等を広報する。

子どもが自ら気付いて活動を改善することができるようにしたいものです。

教師から「ごくろうさま」など、ねぎらいの言葉を使って、感謝の気持ちを自然に伝えることができる言語環境を整えましょう。



- 掲示物に付箋紙を使って、子ども同士で称賛や励ましのコメントを記入し、貼付する。



◇◇くんたちのおかげで、毎日教室がピカピカです。

〇〇さんは、ぼくたちが朝早く来て作業していたのを知ってたんだ。感謝されてうれしいな。

- 学校行事について、個人目標と集団目標を設定し、目標に沿った反省を累積していく。



いろいろな行事を単発で終わらせるのではなく、行事を振り返り、次の行事に生かしていくという視点が大切です。

学校行事を学級・学習集団づくりに大いに役立てましょう。

運動会や合唱コンクールなどは、子どもたちが主体的に認め合い、励まし合い、磨き合う絶好の機会です。一方的に指導するのではなく、練習の様子を写真や映像で見せて改善点に気付かせるなど、子どもたちのハートに火をつけて学校行事に取り組ませたいですね。



ある中学校での取組から

学級活動の授業を行うにあたって「大切にしているもの」の写真を5枚撮ってくることを課題としました。子どもたちは賞状や部活動の道具、楽器、家族、ペットなど、思い思いの写真を準備しました。その後、それぞれの写真について「なぜ大切なのか」を記入したものを一緒にファイルに綴り、ファイルを見せ合いながら付箋紙に感想を書き、交流する活動を行いました。驚いたのは、「新たな発見があって楽しかった」よりも「自分らしさがわかった」という感想が多かったことです。活動を通して「これからも大切にしたいこと」「自分が課題としていること」に気付き、自分を磨いていく意欲が高まったのではないかと感じた取組でした。

ふくしまの「家庭学習スタンダード」の活用について

ふくしまの「家庭学習スタンダード」は変化の激しいこれからの時代を生きる子どもたちの家庭学習を充実させるために、家庭学習を通して育みたい力を地域・家庭と学校が共有し、連携・協力しながら、それぞれの役割を果たしていくことを、子どもの具体的な姿を示して作成されました。

家庭学習は**学校教育の一環**として行われるものであるという認識を教職員で共有し、学校として体制を整え、家庭、地域の役割を明らかにして、子どもの学びを支える風土を醸成していく必要があります。

その中で、子どもに身に付けさせたい力として重視しているのが「自己マネジメント力」です。これは、家庭での学習を主体的で自律的なものにかえることができる力であり、R-PDCA サイクルを繰り返すことで徐々に身に付けていくことができると考えています。



R-PDCAサイクルとは

「**R**esearch 自分を知る－**P**lan 計画する－**D**o 自ら学習する－**C**heck 確かめる－**A**ction 見直す」の5つの段階を設定し、家庭学習への取組をサイクルの中に位置付け、子どもが自覚的に実施することで主体的に取り組む態度、機能的な自己改善のサイクルを目指すものです。

<学校での取組例>

R esearch 自分を知る 自分の課題を客観的にとらえる。	- 家庭学習を振り返る場を設定する。 「自己診断チェックシート」などを実施する。 ※義務教育課 HP Q&A	
P lan 計画する 自分の課題にそった目標や計画を立てる。	- 目標と計画を立てる場の設定する。 - 計画表を工夫し、子どもの自覚を高める。	
D o 自ら学習する 計画にそって主体的に学習する。	- 取組の履歴を残す実施表を準備する。 - 朱書きやコメントで励ます。	
C heck 確かめる 学習の結果や取組を振り返り、確かめる。	学期に1回程度、取組の振り返りの機会を設定する。「家庭学習を見直そう週間」など	
A ction 見直す 学習の内容・方法を見直し、修正する。	目標に照らして取組を改善・修正させる。	

学校での取組を保護者に知らせ、家庭学習の進め方への理解を深める必要があります。また、協力していただくことを明確にして、継続的に実施できる方法を工夫していくことが大切です。

<保護者に取組を促して・・・>

P T A集会や学級、学年懇談会、個別懇談などの機会をとらえて、家庭学習を充実させるための3つの視点について話題として、保護者に協力を要請しましょう。

視点1 心の支え

- コミュニケーションを大切に
- 安心感を与えられるように

視点2 環境づくり

- 集中できる環境を
- 読書の機会を多く
- 地域行事や体験活動を

視点3 習慣づくり

- 早寝・早起き・お手伝い
- 朝ご飯は毎日食べる
- テレビやゲームなどのルールを決めて

<学校の4つの取組>

取組①

- 学校の実態に応じた「家庭学習の手引き」の作成・改善
- 教科、学年間で宿題の量を適切に調整した家庭学習の習慣化

取組②

- 学びの連続性を意識した、宿題を活用する授業づくり
- 授業で学んだことを活用する場面の紹介

取組③

- 学習の仕方の継続的な指導
- 「調べ、考え、書く」を中心とした活用型の宿題の工夫

取組④

- 家庭学習についての小・小、小・中連携
- 学習についての教育相談の充実

3 日々の授業づくりを支える視点

連続性のある幼小中の接続となるために ～幼児教育の視点から～

子どもの資質・能力を育成するためには、幼児教育でどのような取組がなされているのかを知る必要があります。今後の小・中学校での取組を改善するための参考にしてください。

幼稚園等で行っている取組

◇ 学びの連続性を踏まえた保育の改善

- 「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を基に目指す子どもの姿を明確にし、長期的・短期的な指導計画を作成して保育を展開している。
- 保護者の保育参観や保育参加の機会を設け、家庭とのつながりを大切にしたい保育をしている。
- 遊びの中にある子どもの「**気付き**」や「**試行錯誤**」を大切にしている過程を重視した保育をしている。

接続のポイント

学びや人格形成は幼児期から始まっています！

幼小の育ちと学びをつなぐ「**スタートカリキュラム**」による指導を充実させましょう。

◇ 言葉による思いを伝え合う場の設定

- 単なる言葉の指導をするだけでなく、コミュニケーション能力を育てるために、伝え合いの機会をつくっている。
- 様々な体験から感動したり、友達と心が通ったりした喜びを、**自分の言葉**で表せるように働きかけている。
- 友達のよいところを言葉を使って紹介するなど、**互いを認め合う学級づくり**を行っている。

心ゆさぶる体験を言葉にすることで表現力を高めます！

学習の成果を話したり、書いたりする活動を設定して表現力を育てましょう。

◇ 主体的に体を動かす遊びの工夫

- 体を動かす気持ちよさを体験させるために、遊具の工夫や季節に合う**環境づくり**に努めている。
- 「**幼児期運動指針**」を活用して多様な動きを経験できる遊びを設定したり、一日に体を動かす時間が**60分以上確保**できるように指導計画を工夫したりして、十分な運動量の確保に取り組んでいる。

運動量の十分な確保が、健全な発育につながります！

様々な場面で**運動する時間を確保**し、体力向上や肥満解消を図りましょう。

◇ よさや可能性に目を向けた評価の工夫・活用

- 具体的な子どもの姿を基にして**指導を振り返る話し合い**を日常的に行い、子ども一人一人のよさや可能性を見いだして幼児理解に努めている。
- **各年齢の目指す子どもの姿**に照らして、子どもの成長を評価し、次の指導の改善に生かしている。
- 特別な支援を必要とする子どもについて、保護者との合意形成、関係機関との連携を図りながら**個別の教育支援計画、個別の指導計画**を作成している。

一人一人の見取りが教育効果を高めます！

幼稚園等からの**情報を共有**し、児童生徒理解につなげましょう。

幼稚園等の保育、小・中学校の指導の相互理解を！

幼稚園等、小・中学校の先生方が共に集まり、研究授業を通じた情報交換をすることによって、それぞれの指導観や指導法を理解したり、指導の方向性を共通化したりすることができます。

小学校研究授業の事後協議会から



幼稚園教諭

めあてがあることで、何を、どのようにすればよいのかが分かるんですね。園児にも、目標をもたせる工夫をしたいと思います。

指導方法について考え方を共有

めあてとまとめの整合性を図ると、学習内容の確認ができますね。授業の中に、まとめや振り返る時間を確実に設けたいと思います。



中学校教諭



小学校教諭

子ども一人一人に学習の目標をもたせることは、主体的に学ぶことにつながるということ、時間内に学習内容の確認をしたり、適用の機会を設けたりすることは、定着につながるということを話し合いました。これからの指導に生かしていきたいと思います。

中・高の学びをつなぐための課題と連携の在り方

～高等学校教育の視点から～

他校種との学びの接続を考えたとき、中学校と高等学校の間には大きな違いがあるように思われます。学習環境上の問題点や生徒の立場に立った接続上の課題を整理し、中学校の学びを高等学校へとつなげるために考慮したい点を紹介します。

◇ 高校生の気になる発言から見えてくるもの

【高校生の気になる発言】

「授業の進度が速くてついて行けません。」

説明を聞きながらノートにまとめることに慣れていない。
※進度が速い学校の数学は教科書2.5冊/年ペース

「今日もノートに書くんですか？ワークシートで簡単に解けるようにしてください。」

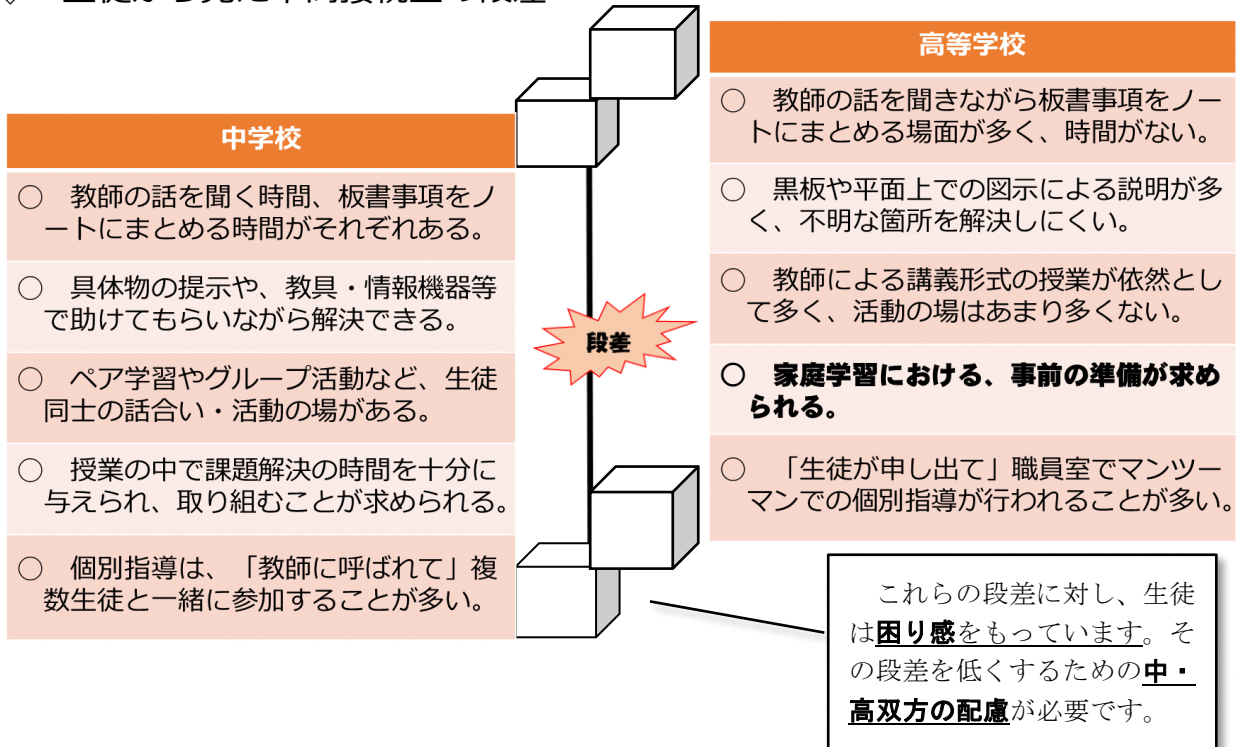
空欄を埋める学習に慣れ過ぎている。板書を写すだけで自分のノートを活用した自学自習の基盤をつくれない。

「毎日の家庭学習時間ですか…？え～と、0時間です。」

課題をやらなくても何とかなるという事実がある。家庭学習をしたことによる授業内での成功体験が不足している。中には、家庭に学習するスペースがない生徒もいる。

次時の学習につながるよう、授業と家庭学習とをリンクさせる工夫が必要です。

◇ 生徒から見た中高接続上の段差



◇ それぞれの校種における授業改善に向けての課題

〈中学校〉

- ・ 教師主導の授業になり、生徒の「考える（伸びる）」時間（機会）を奪っていないか。
- ・ 素材を十分に生かした授業構想か。
- ・ 効果のないグループ学習、ペア学習をさせていないか。

〈共通〉

- ・ 単位時間の授業のねらいとまとめの整合性はあるか。

〈高等学校〉

- ・ 教師の一方的な説明に終始していないか。
- ・ 教室全体及び生徒一人一人の表情を見ているか。
- ・ 自分の授業の振り返りをせず、中学校のせい、勉強しない生徒のせいにしていないか。

◇ 中高連携の在り方

- (1) 生徒を**送り出す責任、受け入れた責任**を自覚し使命感をもち、困っている生徒の立場になって具体的な方策を考えることが出発点になる。
- (2) 中・高の教科書の内容を系統的に理解し、**双方の教員の指導力向上**に結び付くよう連携の内容を工夫しながら、**互いの校種を意識した意図的な授業展開**を取り入れる。
中：「高校では～なるよ」「この続きは高校で」「なぜこうなるのかは高校で詳しくやります」
高：「中学では～だったけど、高校では…」「中学生の解法でも考えてみよう」



◇ 高等学校における具体的な学び直しの取組例

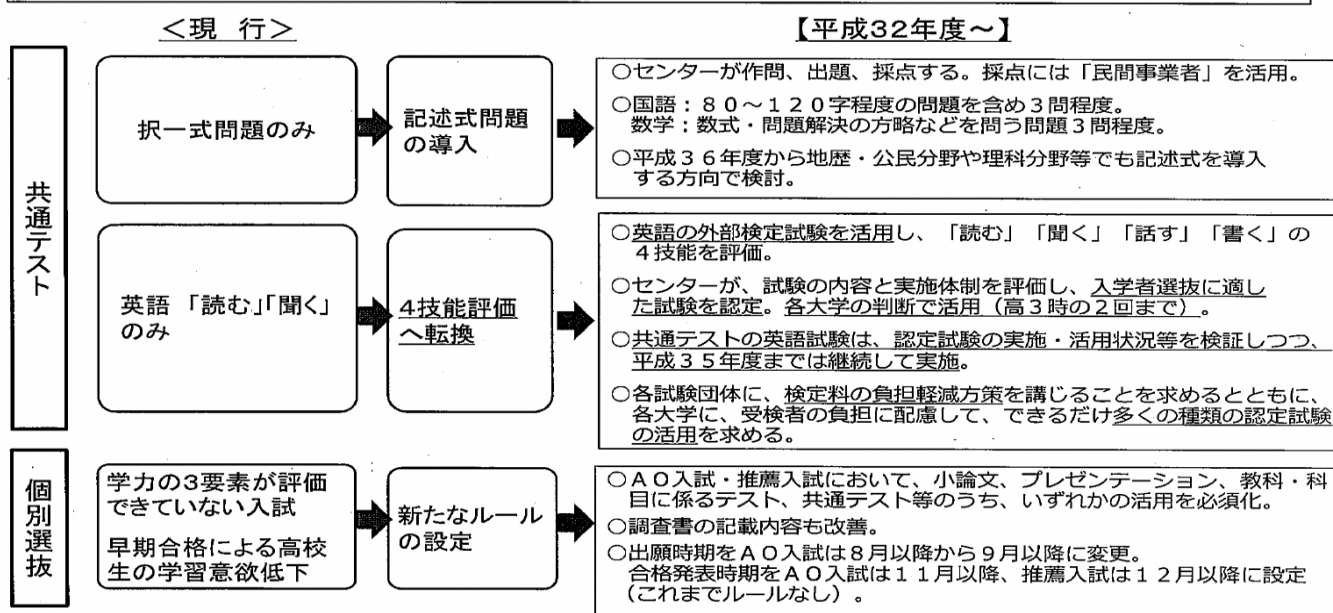
- (1) 入学時の基礎学力の把握 … 新入生への課題テスト、外部の学力診断テスト等の実施
 - 個及び全体の学習状況の分析、**個々の誤答分析**をする。生徒のつまずきは教師のつまずきであることを認識した指導方針を立て、自校の**生徒の実態に応じた学び直しの教材**を作成する。
 - 生徒個々の学習カルテ（前の校種の学習内容の到達度を把握できるもの）を作成する。
- (2) 授業における課題プリントや小テストでの基礎・基本問題の反復練習
- (3) 定期考査、朝学習等で「**ミスをしない**」だけでなく「**なぜ間違えたのか**」の確認
- (4) 職員室での個別指導 … **いろいろな先生からの言葉かけが生徒にとって何よりの励まし**になる。

◇ 大学入学者選抜改革について（平成 29 年 7 月 13 日 文部科学省）

- 大学入学共通テストは、大学入学希望者を対象に、高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的とする。このため、各教科・科目の特質に応じ、知識・技能を十分有しているかの評価も行いつつ、思考力・判断力・表現力を中心に評価を行うものとする。

大学入学者選抜改革

- ◆ 受検生の「学力の3要素」について、多面的・総合的に評価する入試に転換
 - ① 知識・技能 ② 思考力・判断力・表現力 ③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
- ◆ 高大接続改革実行プラン、高大接続システム改革会議最終報告に沿って、大学入学者選抜の改革を着実に推進
- ◆ 平成32年度「大学入学共通テスト」開始 ※記述式、英語4技能
平成36年度 新学習指導要領を前提に更に改革



◇ 中・高の学びの段差を低くするための「中学校における指導の工夫」

- ワークシート等で思考の流れを与えるだけではなく、板書事項を教師や友人の話を聞きながら**自分なりに工夫してノートにまとめる**授業形態を意図的に取り入れる。
- 一定量の課題を、自分の学習計画に基づいて実践し、やり遂げたという体験を味わう場面を設定する。また、家庭と連携しながら物事を最後までやり通すことの大切さを伝える。
- ただ課題を与えていくのではなく、生徒自ら課題を設定した探究的な学習の場面を取り入れる。
- 自分の力で解決できないような疑問点については、授業終了後や昼休み、放課後等を利用して**自ら教師に質問する**よう促すとともに、それが可能な校内の学習環境を整える。
- 生徒自身に自分が集中できる環境（場所）を見付けさせ、**課題に一人で向き合う**習慣を身に付けさせる。

すべての子どものよさや可能性を最大限に引き出すために ～特別支援教育の視点から～

日々の授業の中で教師が対応に苦慮する子どもは、自身も**学びにくさ**や**生活しにくさ**を感じながら学校生活をおくっています。「特別支援教育の視点」を取り入れた授業づくりは、障がいの有無にかかわらず、「**すべての子どもにとって分かりやすい**」ということであり、「**授業のユニバーサルデザイン**」と呼ばれています。安心して生活できる**落ち着いた環境**の中で、**自己有用感**、**自己肯定感**を育み、すべての子どものよさや可能性を最大限に引き出していきます。



学習環境を整えましょう！

- ☐ 黒板や黒板周りには、その授業に関係するもののみ掲示する。
- ☐ 刺激になるものをカーテンや布で覆う。
- ☐ 座席の位置を工夫する（廊下側や窓側は避ける、支援しやすい前列や見本になる友達の近くにする等）。
- ☐ 予定を変更する場合は必ず予告する（変更となった楽しい活動はいつ行うことができるのかも伝える）。



何が苦手かを理解しましょう！

<話すことが苦手>

- ☐ 必要に応じて選択肢を示す。
- ☐ 書いて伝える方法を提案する。

<読むことが苦手>

- ☐ 教科書等の文字を拡大したり行間をあけたりする。
- ☐ 読んで聞かせる場面を作る。

<書くことが苦手>

- ☐ 重要語句を枠で囲むなど板書を工夫する。
- ☐ ノートのどこに何を書くかなどのルールを明確にする。



分かりやすく伝えましょう！

- ☐ 「大事なことを一度だけ言います。」など、子どもの注意を引きつけてから話す。
- ☐ 指示は短く、具体的に伝える。
- ☐ 重要なことは、板書する。
- ☐ 絵や図、文字などを用い、指示内容を可視化する。
- ☐ 教師の視線、しぐさ、声の大きさやトーンを変化させるなど、子どもへの伝わりやすさを考える。

高めよう！ 自己有用感！ 自己肯定感！



称賛し、 認めましょう！

- ☐ 得意なこと、興味・関心があることに注目する。
- ☐ 頑張りを認め、あたりまえのことでも周囲の子どもたちと同じようにできたら褒める。
- ☐ よさや得意なことを生かし、人の役に立った、人に喜んでもらえた等の経験ができるようにする。
- ☐ 他の教師を通して褒めたり認めたりする。
- ☐ あたりまえのことを自然に行っている周囲の子どもたちへの称賛も忘れない。

※ 他人への迷惑行為などに対しては、譲らない姿勢で接することが大切です。約束事は学級全体で共有しましょう。

◇ 保護者と連携するためには

- ☐ 保護者の願いや困っていることに耳を傾ける。
- ☐ 子どものよさを日常的に伝える。
- ☐ 「どの活動で」「どんな支援をしたら」「こんなことができた」など具体的に伝える。
- ☐ うまいかなかったことも共有する。
- ☐ 保護者の頑張りをねぎらう言葉をかける。

※ 保護者との共通理解、一貫性のある指導が、子どもの社会性を養い、将来の自立につながります。

保護者が不安になる教師の「ことば」

- 「困っています」
- 「専門家に聞いてきてください」
- 「忙しいので・・・」
- 「他の子もいますから・・・」



話し合った内容は「個別的教育支援計画」に記入し、保護者との懇談や関係機関との連携、就学時や進学時等の引継ぎに活用しましょう。

学習における「困難さ」の見取りから始めましょう！

支援を必要とする子どもたちが**自立と社会参加**をしていくためには、学習における子どものもつ**困難さ**を見取り、それに応じた**指導や支援を充実**させ、**十分な学びを確保**していくことが大切です。次の【10の視点】からどんな困難さがあるのかを推察し、指導の工夫や手立てを具体的に考えていきましょう。

◇ 困難さ【10の視点】

- ① 見えにくさ ② 聞こえにくさ ③ 道具の操作の困難さ
- ④ 移動上の制約 ⑤ 健康面や安全面での制約 ⑥ 発音のしにくさ
- ⑦ 心理的な不安定 ⑧ 人間関係形成の困難さ
- ⑨ 読み書きや計算等の困難さ ⑩ 注意の集中を持続することが苦手



教科書がうまく読めないよ・・・



Aくんは、一行とばして読んでしまうことが多いわ。どんな「困難さ」があるのだろう？【10の視点】からすると、①・⑨かしら？

実践例はここ！

◇ 障がいのある児童（生徒）への配慮事項

学習指導要領解説各教科編に配慮事項が掲載されており、福島県特別支援教育センターHPにより詳しく実践例が掲載されています。

Ⅲー1ー一人一人の特性等に応じた必要な指導や支援のために ☆①情報補助資料

☆障がいのある児童生徒などへの配慮 ～国語編～



小学校学習指導要領解説国語編・中学校学習指導要領解説国語編に掲載されている内容をまとめました。

【小学校 国語の配慮例】

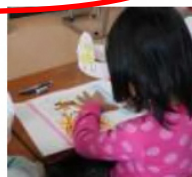
1 文章を目で追いながら音読することが困難な場合

【10の視点*1】から予想される困難さ

(例) ①見えにくさ ⑨読み書きや計算等の困難さ ⑩注意の集中を持続することが苦手

＜そのための指導の工夫の意図、手立て＞

自分がどこを読むのかが分かるように教科書の文を指等で押さえながら読むよう促すこと、行間を空けるために拡大コピーをしたものを用意すること、語のまとまりや区切りが分かるように分かち書きされたものを用意すること、読む部分だけが見える自助具（スリット等）を活用することなどの配慮をする。



※ 福島県特別支援教育センター「コーディネートハンドブック」

☆『障がいのある児童生徒などへの配慮』

Aくんは行を追って読むことが難しいみたい。次の授業では、教科書をちょっと拡大コピーして、読む行に定規を当てて読むようにさせてみましょう！

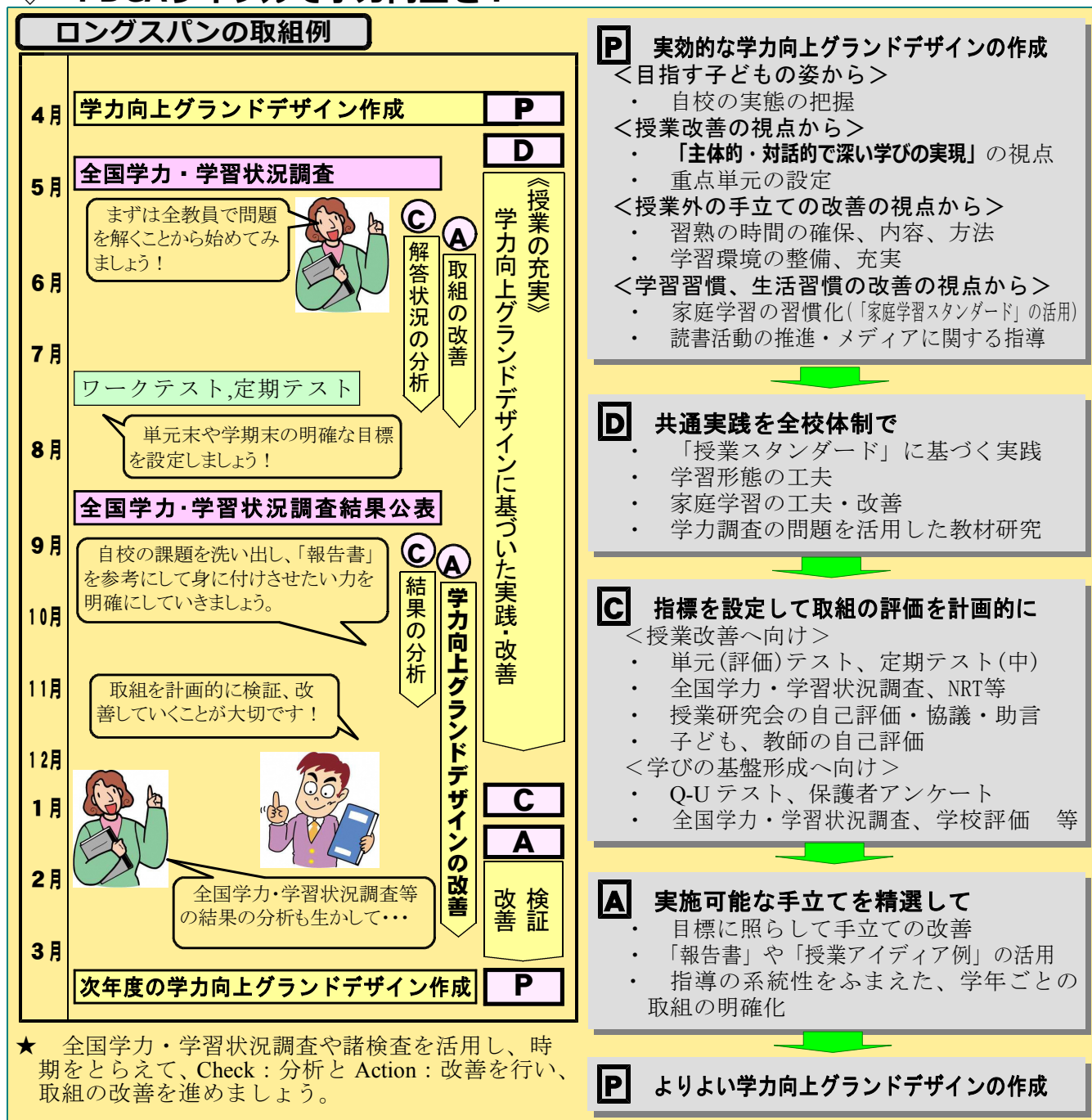


文字が大きくて、見やすいな！定規を当てているからどこを読めばいいか分かりやすくなった！

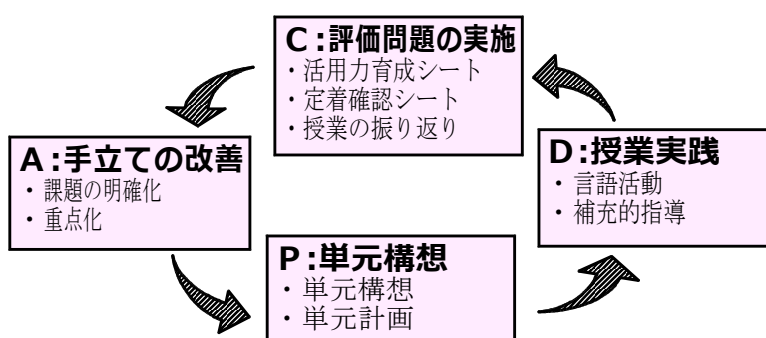
障がいのある子どもを指導する場合でも、教科等の目標や内容の趣旨、学習活動のねらいを踏まえ、学習内容の変更や学習活動の代替を安易に行うことがないように留意し、指導や手立てを工夫していくことが大切です。

4 明確な目標設定による組織的な学力向上策の推進

◇ PDCAサイクルで学力向上を！



ショートスパンの取組例



活用力育成シートや過去の定着確認シートなどを活用してショートスパンのPDCAサイクルの充実を図りましょう。特に課題となっている単元や領域、解答方法など、子どもの実態に応じて問題を選びながら活用することで、補充学習などが効率的に実施できます。

各校とも、学力向上グランドデザインを基に組織的な学力向上策が進められています。取組は成果に照らして常に見直し、改善しながら実施するようになります。取組の充実を図るために、役割分担を明確にし、全校体制で継続的な実践が進むように努めていただきたいと思います。

＜ 参考文献・引用文献 ＞

- 幼稚園教育要領(平成29年3月) 文部科学省
- 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月) 文部科学省
- 保育所教育指針(平成29年3月) 文部科学省
- 小学校学習指導要領(平成29年3月) 文部科学省
- 中学校学習指導要領(平成29年3月) 文部科学省
- 高等学校学習指導要領(平成29年3月) 文部科学省
- 特別支援学校学習指導要領（幼稚部・小学部・中学部・高等部）(平成29年3月) 文部科学省
- 幼稚園教育要領解説(平成20年10月) 文部科学省
- 小学校学習指導要領解説（各編）(平成29年6月) 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説（各編）(平成29年6月) 文部科学省
- 高等学校学習指導要領解説（各編）(平成29年6月) 文部科学省
- 特別支援学校学習指導要領解説（各編）(平成29年6月) 文部科学省
- 幼児期運動指針(平成24年4月) 文部科学省
- 高大接続改革の実施方針等の策定について 文部科学省
- 生徒指導提要（平成22年3月） 文部科学省
- 生徒指導リーフ 国立教育政策研究所
- 楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
- 学級・学校文化を創る特別活動 中学校編
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
- スタートカリキュラムスタートブック(平成27年1月)
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
- ふくしまの「授業スタンダード」 福島県教育委員会
- ふくしまの「家庭学習スタンダード」 福島県教育委員会
- 「授業をつくる16の視点」 福島県教育資料研究会
- 「日々の授業のブラッシュアップVol.1」
－授業の基礎／基本「発問、板書、ノート指導」－ 福島県教育委員会
- 「日々の授業のブラッシュアップVol.2」
－授業を支える「教材研究、学習指導案、話し合い、基本的な学習習慣」－
福島県教育委員会
- 「授業におけるコーディネートの在り方」 福島県教育センターHP
- コーディネートハンドブック 福島県特別支援教育センター
- 初等教育資料（平成26年度～平成29年度発行分） 文部科学省教育課程課
- 中等教育資料（平成26年度～平成29年度発行分） 文部科学省教育課程課

ほか